

## 6 - 2 飛騨地方の微小地震活動 (1987年1月1日～11月11日) Microearthquake Activity in the Hida District (January - November, 1987)

名古屋大学理学部 高山地震観測所  
Takayama Seismological Observatory  
School of Science, Nagoya University

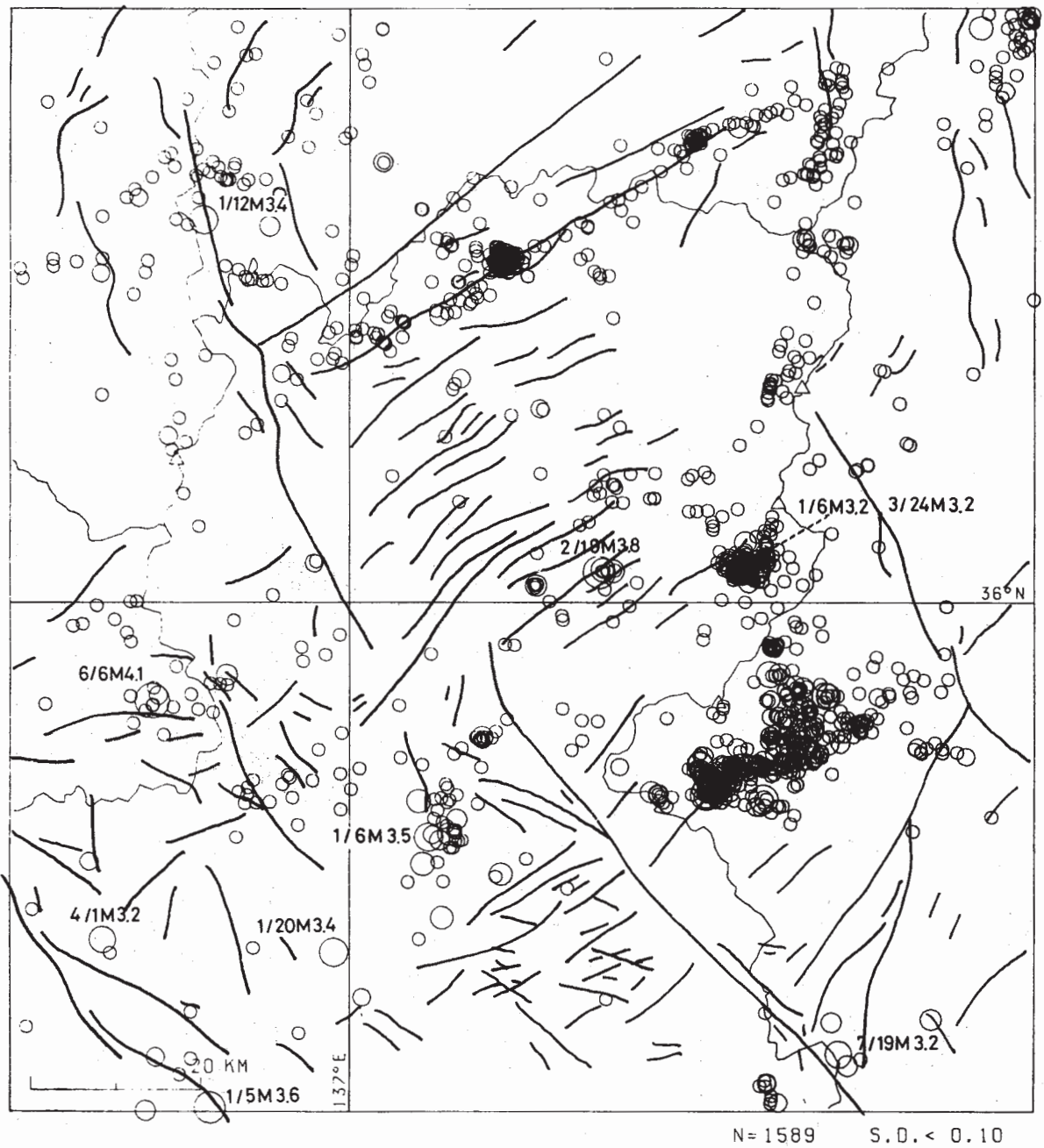
1987年1月1日より1987年11月11日までの飛騨地方の微小地震活動について報告する。

第1図は1987年1月より7月までの7ヵ月間の震央を、第2図は8月より11月までの約4ヵ月間の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 跡津川断層では線状配列がみられるが、その中央部の密集した活動は昨年(1986年)の12月25日のM4.0の余震である。
- (2) 焼岳周辺には火山性と考えられる群発活動がみられるが、10月7日M2.8の地震が発生した。この地震は最近数年間では同地域での最大の地震であった。
- (3) 乗鞍岳南麓に拡がる活動は、昨年(1986年)3月7日M5.0の余震活動と、従来から存在する群発性の活動である。
- (4) 長野県西部地震の余震は時間とともに活動が低下しているが、約11ヵ月の間に $M \geq 3.0$ の地震が15個発生する等の余震活動がみられた。
- (5) 従来より阿寺断層では地震の線状配列が認められないが、第2図中央の8月10日M4.0の地震は断層の北西端付近に、また第1図右下の7月19日M3.2の地震は断層の南東端付近に発生した地震であり、注目される。
- (6) その他の $M \geq 3.5$ の地震としては、岐阜県中部地震(1969年9月9日、M6.6)の余震域内に1月6日M3.5の地震が発生した。また6月6日岐阜県白鳥町東方でM4.1の地震が発生した。

JAN. 1 '87 - JUL. 31 '87



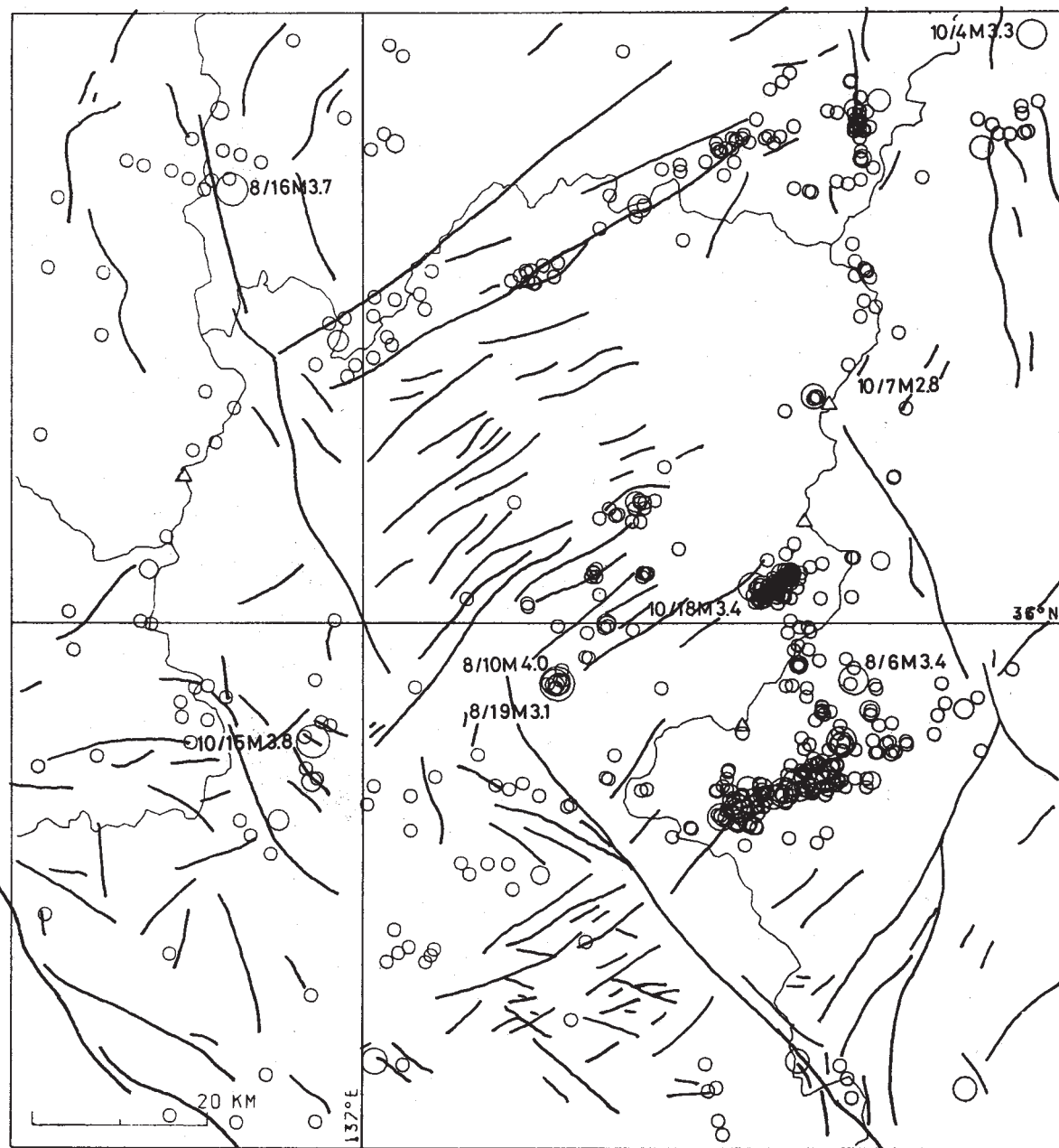
MAG. 2 3 4 5 DEPTH 0 10 20 30 (KM)

○ ○ ○ ○ ○ ○ □ ☆

第1図 飛騨地方の微小地震の震央分布 (1987年1月-7月)

Fig. 1 Epicenter distribution in the Hida District (January - July, 1987).

AUG. 1 '87 - NOV. 11 '87



N=611 S.D. < 0.10



第2図 飛騨地方の微小地震の震央分布 (1987年8月 - 11月)  
 Fig. 2 Epicenter distribution in the Hida District (August - November, 1987).